

書籍のご案内

『日本文化原論 永続思想 主体性学』

真なる調和への道七色の虹の架け橋 (著横山俊一)



近日、アマゾンで販売予定です。

本体価格 1.780 円
(税抜き)

編集
美粋書房
発行



ご挨拶

文化慣習

1)縁起物制作と文化観

1-1 因縁生起と思想世界観

幼少の頃より縁起物制作と販売に従事し民間の会社に約 8 年間勤務し文化論の執筆を始めて約 10 年間に経ちました。「家内安全と商売繁盛と健康長寿」という基本祈願に対しこれを遂げる方法的な思索と施策が続き、表現にも生命観らしき性質が形成され広くご案内してもよろしい段階に到達したかの認識が起こります。哲学文化論を学校教育の科目構成へ及ぼせる働きかけをしている中にあります。確たる領域観と稼働と実践力をためたく日々執筆が続けられます。2013 年 12 月より執筆をはじめ、2014 年 5 月に「日本文化原論 真なる調和への道 神からのブラボォー」を出版し、以後、改善を重ね本書の形成に至ります。多くの人々から良い力を賜り衷心より感謝申し上げます。意識的か無意識に、因縁生起という感覚が備わり思想世界観の産出へ及ぶ。

1-1-1 因縁生起

1. 吉凶の前触れ。兆し。前兆。「縁起がよい」2. 物事の起こり。起源や由来。3. 社寺・宝物などの起源・沿革や由来。また、それを記した書画の類。「信貴山(しぎさん)縁起絵巻」4. 仏語。因縁によって万物が生じ起こること。出典：デジタル大辞泉(小学館)

2)文化思想の執筆活動

昨日(2022.8.1)、近所のコンビニの ATM でお金を引き出そうとした所、キャッシュカードが使えない状態になった。前にもこのような経験をした事がある。頻繁にあるわけではない。当方は日ごろ文化論の執筆活動をしている。良好な社会性と生態を作る事を求め、書いた内容をメディアに掲載する。さらに、各種の教育機関に、このような内容の科目を作るように、働きかけをしている。哲学文化科目などと題し、生命観や人間観、などという根本的な概念の提起と稼働の規則性を促進させるという創造力であると認識する。メディアの掲載は、広く社会への提案作用を生み、産業経済、政治行政、教育文化などという各特定領域へ概念を示し納得感や共感性が進めば、こうした根本概念を反映して個別特定現象の性格を作るという因果性が産み出される。メディア掲載と各種特定領域の価値基準と稼働性に及び、良好な社会性や生態を作る事に回る。教育機関への基盤性科目の確立を図り、人間と現象の起源性から良好な感性や発想と思考と行為の習慣性を作り、生命や人間性という性質が作りこまれ、実社会における活動と秩序の良性へと連なる。2013年12月頃から執筆活動を習慣とする。この時期から何やら論文を外部からサイバー犯罪による不正な手段による監視や論文の盗みや悪性ウィルスをパソコンに加え、これまで約三台のパソコンも破壊されている。大手メディア、テレビ、新聞、政治、経済等の領域で論文の引用をせずに用いられているという認識を常態する。そして、冒頭に申し上げたような現象が発生する。権力や財力、技術力の暴走的な活用と判断している。ある程度、主犯格となる対象も絞り込まれる。日頃の習慣や長年の規則性から健全な制御性を欠く発想や手段に外れる性格が産み出される。あるべき生命観や人間観や創造観の導出と一般傾向側の抽出に及ぶ。このような内容を論文という形に纏め良好な言葉や概念、思想世界観を表すことに及ぶ。

3)過程と産出

3-1 活動観と方法的、分化と統合

適当な思考の枠組みとして「理念と現況と方法と検証と改善と持続」という観点と相関と習慣として活動観を生む。実際はいずれの要素にも方法的性を内在するように感じる。個々の生い立ちや歴史性、成長段階等からどのような側面に力の割合が向けられるか、程度の違いを生む。完結的一巡の観点を持って分散と統合の適正に向けられる。

3-2 主要な産出：文化観の導出

以上のようにして、根本且つ大局観と個別特定性の相関と体系の認識を生む。根本且つ大局性を主要な関心に絞り、概念形成と稼働と検証と改善と持続の系を有する哲学文化領域を生む。文化観という概念導出に絞り、良好な産出を遂げることに当該創造の範囲が生まれます。

人間と生態の健全と永続という万人集約性の理念の導出と実践を図る思想体系を産む。主体性原理と具象化し精査する。変らぬ土台的基礎と全体性を構成する。

3-3 執筆過程と産出性

文章執筆は、後半から前半へ向け思索と施策と改善を重ね更新が成されます。前半部分へ行くほどに最新の基準概念を生み「まとめ」に集約されます。「過程と産出」の関係が形成される。

まとめ、一部から五部
A5 473 ページ 白黒 446P カラー27P
文字数 186.951 ほど

基礎基盤性科目

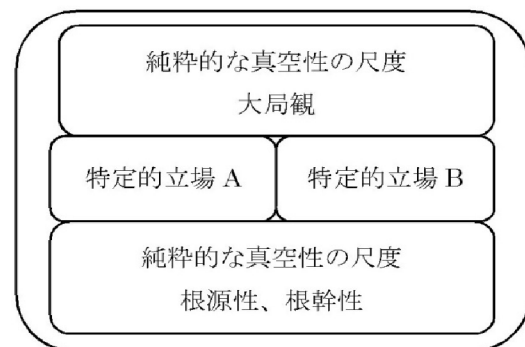
1) 具象観点

1-1 当事者性

A と B という当事者間で「あれをしろこれをしろ」という指示命令の態度を強めると、人間の尊厳という根源的な欲求から抵抗感と不快の因果が生じる。安直的に自己の欲望と充足を求め一方向の要望を高めると人間の根源を狂わせる。「何かをしろ」という命令からその効果や結果に着目し命令の意義を問い公益に適う事柄に及び自他を含む利益と同一理念と実践を遂げる。健全な人間と創造と社会性を生む。

1-2 第三者性

当事者の私的欲求の高まる利害と衝突について、直接的な利害から離れた第三者という立場を想定し、私的性を排し描かれる公性の概念を表し、良し悪しの根拠の導出と運用に連ねる働きを生む。純粹的な真空性の尺度を表し特定現象の因果認識を整理し、標準観念と現況性の認識と過不足の客観性を引き上げ、自他を含む公性の利益の実現へ向けた判断に及ぼせる創造法則を生む。健全な根源性と根幹性を基礎土台性に整えそれを反映した大局観が求められる。そして個別特定現象の認識や性格付けに及び各種利害と対立を調和と持続に向かわせる。



2) 準抽象・抽象

2-1 広狭の普遍的不変性

純粹性の概念自体に目的があるというよりも良好な当事者性を作る事を意図し純粹概念と特定現象の適正を求める創造を生む。健全な根源性と根幹性を有する純粹利益の探究と態度を内在し良好な産出性を実現する。自己と外界との真摯な対面を常態し地に着く普遍的不変の模索と稼働の習慣を遂げる。狭義と広義の観点と相関をもって、健全な生命が稼働する。

| | | |
|-----|----|------------|
| | 静的 | 狭義性の普遍的不変性 |
| 動的 | | |
| 特定性 | | 動静 |
| 特定性 | | |

2-2 根源と根幹及び大局観

妙に上から見下ろし、一方向性の強まる要望過多と私的欲求を求める性格の高まる普遍的不変の追求との相違を生む。感性と観念と精神と身体の一巡の相関と周期を根本性に有し稼働する状態に、健全な生命や人間と特定創造性が作られる。根本性を反映し大局観を作り生態系や生態観を引き出す側面を併せ持ち、個別特定領域の形成と性格付けや制御性に及ぶ。

2-3 産出性と検証性と当事者性

こうした産出性に対して、内外との関わりと検証を内蔵する特定生産性と領域性に具象化されて一巡的完結性の根本原理が作動する。どこの領域とも同一の根本性が働き、健全な特定領域を存続する。この様子から当事性を有する普遍的不変の導出と特定の創造が作られる。

3)根本性

3-1 哲学文化の周期性

当事者と第三者、個別特定と普遍的不変、根源と根幹と大局、産出と検証、客観と主観、価値と事実、

当事者と第三者なる観点と相関を問いながら、個別特定性と普遍的不変性の観点を生み、根源性と根幹性と大局の導出に及び、客観と主観なる概念の精査された見解に回り、健全な事実性や価値性なる概念と中身の精査と稼働に回る。哲学文化という性質が形成される。

3-2 破壊性の世界観

ハード性の偏りの強い因果と対象は、良好な生命と人間と生態から遠ざかり物体の質感が高まる。無機質な機能性の因果が増し一過的効用を求める相関が強まる。相対的な物理因果の感覚で支配され、物理強弱の感覚と生存と成長に支配された秩序を常態し、内外との対立と敵対を基調とする人間性と創造力と世界観を強める。

3-3 感覚と感性と観念の相関

生滅不可分という根源の感性を喪失し、自存願望と実現の発想と思考と作為を習慣とする性質や体質に固まる。強い力を暴走的に用い外界に一過的物質上の効用感と感性の不快を与え、その因果性を間接に広げ次第に常識となり領域全域に渡る性質を深める。これへの対処や予防の力となり根源性に思慮を注ぎ普遍的不変を問い表す創造が出現する。変わりづらい良質の感覚と感性と観念の相関が掘み出される。

3-4 思想性と世界観（生命観・人間観・生態観）

物的力へ異様な依存を起こし、外界を従える発想と思考と作為を増すことの無き、健全な感性を起源に有する創造と習慣をもって、健全な特定領域を存続する。ソフト面がハードを従属させる感性と感覚の相関を概念に定め、根本原理と稼働の思想世界観を永続する。生命観や人間観と生態観などという概念に集約される。

3-5 具象の様式（動静概念と規則性）

この具象的な活動法則として「動静概念と規則性」に展開される。

3-6 基礎基盤性科目

思想世界観と具体の施策を含む創造力の集約に及び、基礎基盤性の科目として変わらぬ良好な価値観と実現の様式へ高められる。

| | | | |
|--------|--------|--|------------|
| 観 念 | 産 出 | 狭義の世界観 悪い事・両面の因果・良い事 具象準抽象抽象、個別特定全体、 | 全体性 |
| 身 体 | 根 幹 | 活動法則：動静概念と規則性 感性と観念と精神と身体の相関と習慣 | 特定観 個別性 |
| 感 性 | 根 源 | 思想性 心理情動・言葉概念・生物物理 | 自他と の良性 |

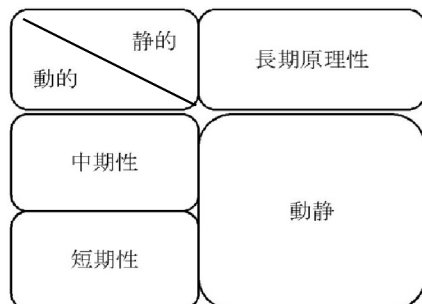
3-7 完結的一巡性、体系と循環

問題点の指摘という行為も少なからず有用を齎せるものの、改善策という具体の施策の提起と稼働の要素が起こらぬと、一過的利益と煽りによる自存策や成長策の性格付けが進む。長らく良好な体系や循環性を持つ特定領域を作る力が弱まると破壊の心象が増す。現象の観測と評価と具体策を含み、完結的一巡の創造原理と実践に回り良好な因果と結果の質感を得て健全な感性と生命が促進される。全体像の中でどのような側面に力を投じるか、特定観の認識を生む。各種の分化と統合と体系と循環と習慣を生む。根本且つ全体性を支配する良好な生命観の内容が現れる。基礎土台性の概念を持ち良好な生命と永続の思想世界観の導出に広がり特定領域観の形成と活動法則に展開される。

4)長期原理性

4-1 純粋性の思想世界観

「権力、財力、技術力」などという各種の力に偏り、特定領域観や全体性の世界観の探究や導出が弱まり、力任せの即効的な利益追求の増す特定領域現象と個別現象の出現について、どのような現象の質実を感じるか。根源的な生命観や人間性の狂った性質に映らぬか。感性と観念と精神と身体の相関と習慣に映る歪性にないか。変わりづらい根本且つ大局観を引き出し、個別特定現象と全体性の抱き方や作り方について吟味がなされる。生命観や人間性を中心に浮かべ、生態観という全体背景を起こし個別特定観を作る構図の導出に及ぶ。破壊と消滅の軌道を強めることのなき、長らく変わりづらい全体総枠性の思想世界観を表し長期原理と定め、時々の内外環境に対面し長期性へ向けた個別特定施策を投じる創造力を生む。



4-2 純粋概念と初動性及び個別特定性

垢のつかない純粋原理性の概念を初動的な基礎に起こし、例えばアリストテレスや仏教などという哲学や宗教の特定の専門分野の研究を進める態度により、芯の太い基礎と大局の上に個別特定の適正を作る活動を生む。基礎と大局を基軸に備え枝葉や血肉を加減する操作により健全な活動と制御を有する創造と習慣と人間を実現する。あまりに生活とかけ離れたような専門や特定が増し先んじると、精神不安と混乱の姿が広がる。基礎基盤性は、万人に平易に伝わる言葉が望まれる。

目次

| | |
|---------------|----|
| まとめ | 1 |
| ご挨拶 | 2 |
| 文化慣習 | 2 |
| 1)縁起物制作と文化観 | 2 |
| 2)文化思想の執筆活動 | 3 |
| 3)過程と産出 | 4 |
| 基礎基盤性科目 | 5 |
| 1)具象観点 | 5 |
| 2)準抽象・抽象 | 6 |
| 3)根本性 | 7 |
| 4)長期原理性 | 9 |
| 長期政策：人間性と生態系 | 10 |
| 1)特定観点の限定 | 10 |
| 2)過程性 | 11 |
| 3)原理性と見識の集約 | 12 |
| 4)運用性 | 14 |
| 一編 科目構成 | 29 |
| はじめに | 29 |
| 1)哲学文化科目 | 29 |
| 2)広義の宗教 | 33 |
| 3)謙虚な態度とは？ | 35 |
| 一章 基礎基盤性科目 | 36 |
| 1)目的と方法と結果 | 36 |
| 2)欲求と序列 | 36 |
| 3)現象と反省と改善の蓄積 | 36 |
| 4)思想世界観 | 38 |

| | | | |
|-------------------|-----|----|--|
| 5)効用・真相真価 | 40 | | |
| 6)展開性：理念と組織体制と稼働 | 41 | | |
| 二章 学術科目構成と実践 | 44 | | |
| 1)思想世界観と実践性 | 44 | | |
| 2)並列と循環 | 44 | | |
| 3)健全な生命と人間と生態の実現 | 46 | | |
| 三章 哲学文化科目 | 47 | | |
| 1)基盤性科目 | 47 | | |
| 2)基礎と専門 | 50 | | |
| 3)根本的観点 | 53 | | |
| 4)創造力の包括観と主体性像 | 54 | | |
| 5)授業概要と計画 | 55 | | |
| 一部 | | 67 | |
| 一編 永続思想と主体性学 1 | 68 | | |
| 一章 基礎基盤性科目の中心的な関心 | 68 | | |
| 1)基本観点と文脈 | 68 | | |
| 2)動静概念と規則性 | 70 | | |
| 3)神格化の懸念 | 72 | | |
| 二章 総論 | 74 | | |
| 1)基礎基盤性科目 | 74 | | |
| 2)主体性学 | 75 | | |
| 三章 各論 | 78 | | |
| 1)抽象観点 | 78 | | |
| 2)具象観点 | 79 | | |
| 3)根本原理性 | 80 | | |
| 4)主要概念 | 82 | | |
| 二編 永続思想主体性学 2 | 88 | | |
| はじめに | 88 | | |
| 1)今日的な時代認識 | 88 | | |
| 2)問題と好感、課題と施策 | 88 | | |
| 3)当該創造性の範囲：哲学文化政策 | 88 | | |
| 一章 背景と全容 | 91 | | |
| 1)哲学文化領域の性格 | 91 | | |
| 2)国家観 | 95 | | |
| 3)思想世界観 | 96 | | |
| 4)特定観の導出、基礎観点 | 97 | | |
| 5)基礎原理と応用 | 98 | | |
| 6)根本且つ大局と個別特定性 | 98 | | |
| 二章 哲学文化観 | 100 | | |
| 1)哲学文化観の形成過程 | 100 | | |
| 2)哲学文化観 | 101 | | |
| 三章 主体性像の導出と稼働 | 104 | | |
| 1)内面性と外形性 | 104 | | |
| 2)基礎基盤性の科目 | 107 | | |
| 3)基礎基盤性の充実 | 111 | | |
| 三編 永続思想と世界観 | 113 | | |
| 一章 永続思想世界観 1 | 113 | | |
| 1)創造力一般性と特定性 | 113 | | |
| 2)根本且つ大局観 | 115 | | |
| 3)中長期原理性 | 117 | | |
| 二章 永続思想世界観 2 | 118 | | |
| 1)憲法と根本原理 | 118 | | |
| 2)特定理念 | 119 | | |
| 三章 永続思想世界観 3 | 122 | | |
| 1)人間の基礎的法則性の認識 | 122 | | |
| 2)長期原理性(動的文脈) | 123 | | |

| | | | |
|--------------------------|-------|--------------------|-----|
| 3)長期原理性(静的方式)：普遍的不変と個別特定 | 126 | 4)永続思想・主体性学 | 174 |
| 4)まとめ | 128 | 二編 長期政策 | 175 |
| 四章 永続思想世界観 | 4 129 | 一章 哲学文化・宗教 | 175 |
| 1)永続の成長 | 129 | 1)創造法則 | 175 |
| 2)生命と人間と生態 | 133 | 2)創造体系 | 176 |
| 二部 | 141 | 3)主題性：なにを | 177 |
| 一編 哲学文化政策 | 142 | 4)根本原理性の抽出 | 178 |
| 一章 哲学文化政策 | 142 | 5)根本性と全容性 | 178 |
| 1)根源性：人間平等の理性 | 142 | 6)抽象集約概念 | 180 |
| 2)根幹性 | 142 | 7)哲学文化 | 181 |
| 3)人間の外形性 | 144 | 8)良好な宗教 | 182 |
| 4)個別性・特定性・職業性 | 145 | 二章 長期原理性 | 184 |
| 5)物理性への依存と高まり | 146 | 1)感性と思考と行為、自由と制約 | 184 |
| 6)哲学文化政策 | 146 | 2)循環系：均衡と成長、平等と成長、 | 184 |
| 二章 思想世界観 | 147 | 3)生態原理 | 184 |
| 1)労使関係 | 147 | 4)創造法則 | 185 |
| 2)哲学文化政策総論 | 148 | 5)動静観 | 185 |
| 3)永続思想 主体性学 | 150 | 6)標準と過不足 | 185 |
| 4)真なる調和への道 七色の虹の架け橋 | 156 | 7)客観評価性と稼働性 | 186 |
| 三章 長期原理性 | 157 | 8)偏差値教育の功罪点の認識 | 186 |
| 1)今日的な傾向と現況認識 | 157 | 9)私的特殊性 | 187 |
| 2)問題性の認識と適正策の導出 | 158 | 10)情報革命・金融・グローバル化 | 187 |
| 3)マクロ政策と目的設定(長期中期短期) | 160 | 三章 長期政策：思想世界観 | 189 |
| 4)根本且つ大局観と個別特定性 | 162 | 1)長期性の政策 | 189 |
| 四章 永続思想と主体性学 | 166 | 2)宗教観・哲学文化観 | 191 |
| 1)問題認識と改善施策 | 166 | 3)中期性の指標と算出と操作性 | 192 |
| 2)根本原理性と運用 1 | 169 | 4)短期的・個別的・因果性 | 193 |
| 3)根本原理性と運用 2 | 171 | 5)長期性の指標 | 194 |

| | |
|---------------------------|-----|
| 三部 | 197 |
| 一編 基礎基盤性科目 | 198 |
| 一章 総論 | 198 |
| 1)潮流：物質的豊かさの功罪 | 198 |
| 2)普遍的不変の真理：言葉概念と身体性 | 199 |
| 二章 根本原理性 | 200 |
| 1)あるべき人間性：外界認識と自己認識 | 200 |
| 2)生命観・人間性、創造性、社会性と自然観、生態系 | 201 |
| 三章 詳述 | 203 |
| 1)生命観と国家観 | 203 |
| 2)根本原理と各種対象の相関 | 203 |
| 3)理論と歴史、動静の適正 | 203 |
| 4)経営と品質、政治と教育、 | 204 |
| 5)根の歪な作為 | 204 |
| 6)力と活用の一般原理 | 205 |
| 7)言葉概念・制度法規・固有技術、習慣と性質 | 205 |
| 四章 哲学文化の総合体系 | 206 |
| 1)文化交流と基盤性科目 | 206 |
| 二編 哲学文化政策 | 207 |
| 一章 哲学文化政策 | 207 |
| 1)コミュニケーションの基礎 | 207 |
| 2)現況性の認識 | 211 |
| 3)各面の分析 | 213 |
| 4)適正策の導出と稼働 | 214 |
| 二章 領域性の原理 | 216 |
| 1)広狭の普遍的不変性 | 216 |
| 2)過程性 | 218 |
| 3)根本原理性：領域性の原理 | 220 |

| | |
|-------------------------|-----|
| 三章 思想世界観 | 222 |
| 1)哲学文化の生産性(独立性・領域性) | 222 |
| 2)哲学文化的生産と交流 | 227 |
| 3)信仰とは、縁起とは | 229 |
| 四部 | 233 |
| 一編 哲学文化 | 234 |
| 一章 哲学文化政策 | 234 |
| 1)特定現象の観測と評価分析、及び哲学文化政策 | 234 |
| 2)普遍的不変の標準概念 | 236 |
| 3)文化文明観の導出と運用 | 241 |
| 4)根本性と一般性と個別特定性 | 245 |
| 二章 人間学 | 247 |
| 1)人間学 | 247 |
| 2)哲学文化の創造力 | 250 |
| 3)主体性と領域性 | 254 |
| 4)哲学文化性の意義 | 259 |
| 5)同一性の尺度 | 261 |
| 6)広義の宗教 | 265 |
| 二編 創造の要約 | 268 |
| 一章 概念と稼働と検証 | 268 |
| 1)不動的理念性、普遍的理念性 | 268 |
| 2)現象の形成 | 268 |
| 3)問題現象の出現 | 269 |
| 4)因果性の解明 | 270 |
| 5)適正化の作為 | 272 |
| 6)教育観 | 276 |
| 二章 概念形成 | 280 |
| 1)概略的現象 | 280 |

| | | | |
|--------------------------|------------|--|--|
| 2) 具体の現象(精査性) | 281 | | |
| 3) 日本文化原論 永続思想 主体性学 | 284 | | |
| 三章 概念と現象 | 285 | | |
| 1) 哲学文化政策 | 285 | | |
| 2) 基盤性科目と専門科目 | 287 | | |
| 3) 思想世界観 | 288 | | |
| 三編 哲学文化政策 | 292 | | |
| 一章 動静観 | 292 | | |
| 1) 動静概念 | 292 | | |
| 2) 時代背景と社会ニーズ | 296 | | |
| 二章 哲学文化政策 | 297 | | |
| 1) 起源性：特定現象と因果分析 | 297 | | |
| 2) 創造力の包括観と科学性の認識 | 298 | | |
| 3) 理想性の導出 | 300 | | |
| 4) 技術性 | 302 | | |
| 五部 | 303 | | |
| 一編 根本的概念 | 304 | | |
| 一章 宗教・哲学・文化 | 304 | | |
| 1) 宗教性・哲学文化性 | 304 | | |
| 2) 思想世界観 | 307 | | |
| 3) 文化性と世界観 | 311 | | |
| 二章 哲学倫理・文化観 | 314 | | |
| 1) 哲学文化領域 | 314 | | |
| 2) 倫理学 | 317 | | |
| 3) 長期周期性 | 321 | | |
| 二編 当該創造力の性格と範囲 | 326 | | |
| 一章 根本且つ大局性の原理 | 326 | | |
| 1) 抽象原理性 | 326 | | |
| 2) 基礎基盤性科目 | 329 | | |
| 3) 思想世界観の原型 | 333 | | |
| 二章 思想世界観とは | 335 | | |
| 1) はじめに | 335 | | |
| 2) 外側：動的文脈 | 335 | | |
| 3) 内側：特定創造力 | 337 | | |
| 4) 内外性 | 339 | | |
| 三章 主要内容 | 341 | | |
| 1) 永続思想と主体性学 | 341 | | |
| 2) 思想世界観の骨子 | 345 | | |
| 3) 哲学文化性 | 350 | | |
| 4) 主要概念図 | 353 | | |
| 三編 永続思想と主体性学 | 356 | | |
| 一章 思想世界観 | 356 | | |
| 1) 特定現象 | 356 | | |
| 2) 習慣性：個別・特定・全体・根源・根幹・総枠 | 356 | | |
| 3) 政治観・国家観 | 356 | | |
| 4) 生命・人間・創造観 | 357 | | |
| 5) 根本性と対象性と適用 | 357 | | |
| 6) 社会観 | 358 | | |
| 7) 産業経済観の高まり | 358 | | |
| 8) 学問・学術 | 358 | | |
| 9) 長期原理性 | 359 | | |
| 10) 根本且つ大局観と個別特定観 | 359 | | |
| 11) 根源・根幹・産出 | 360 | | |
| 12) 思想世界観 | 361 | | |
| 二章 哲学文化観 | 362 | | |
| 1) 普遍的不変性と個別特定性 | 362 | | |

| | |
|---------------------|-----|
| 2)感性と観念と精神と身体の相関と習慣 | 362 |
| 3)人間観と生態観 | 363 |
| 4)哲学文化観 | 363 |
| 三章 日本的なる性格 | 365 |
| 1)特定現象 | 365 |
| 2)適正化の原理と稼働 | 365 |
| 3)哲学文化観 | 366 |
| 4)当該創造力の要点 | 368 |
| 5)日本的なる性格 | 369 |
| 四編 はじめに | 373 |
| 一章 長期原理性 | 373 |
| 1)特定現象 | 373 |
| 2)問題性の認識 | 373 |
| 3)適正策の導出 | 374 |
| 4)健全な感性と制御 | 377 |
| 5)思想世界観 | 378 |
| 二章 普遍的不変の世界観 | 382 |
| 0)はじめに | 382 |
| 1)基礎基盤性科目 | 383 |
| 2)思想世界観 | 387 |
| 3)根本思想 | 390 |
| 三章 宗教と創造性 | 393 |
| 1)宗教 | 393 |
| 2)抽象理論性：皮膚感覚の宗教観 | 394 |
| 3)具体の施策性：生産活動 | 394 |
| 4)宗教の質実 | 396 |
| 四章 領域観・世界観 | 397 |
| 1)当該創造性 | 397 |

| | |
|--------------------|-----|
| 2)特定現象 | 397 |
| 3)観測と評価分析 | 398 |
| 4)提案性 | 399 |
| 五編 哲学文化 | 403 |
| 一章 思想世界観 | 403 |
| 1)広狭の長期原理 | 403 |
| 2)長期原理性 | 406 |
| 3)思想世界観の動力源 | 409 |
| 4)思想世界観の形成過程と産出 | 411 |
| 5)哲学文化 | 413 |
| 二章 当該創造性の要点 | 417 |
| 1)対象の限定 | 417 |
| 2)領域観（生命観・人間観・生態観） | 417 |
| 3)社会観の分析と導出 | 419 |
| 4)共通性と相違性 | 420 |
| 5)概念集約図 | 421 |
| 三章 哲学文化の生産性 | 423 |
| 1)教育概念 | 423 |
| 2)主導性と一般原理性 | 423 |
| 3)活動法則：動静観 | 424 |
| 4)概念形成 | 425 |
| 5)哲学文化性 | 425 |
| 四章 長期原理性 | 427 |
| 1)永続思想と主体性学 | 427 |
| 2)基幹性の基準 | 430 |
| 3)侮辱罪 | 431 |
| 4)健全な自由主義 | 433 |
| 5)七項性 | 434 |

| | | |
|-----------------|-----|--|
| 図表 | 436 | |
| 1)総合 | 436 | |
| 2)動静概念 | 437 | |
| 3)根本性 | 439 | |
| 4)静的概念 | 441 | |
| 沿革 | 451 | |
| 1)プロフィール | 451 | |
| 2)定番と変則 | 453 | |
| 3)神棚と鏡 | 454 | |
| 4)縁起物と思想 | 455 | |
| 5)日本文化原論 -執筆の軌跡 | 460 | |
| 写真 | 463 | |
| 1)縁起物販売 | 463 | |
| 2)縁起物展示 | 464 | |
| 3)店舗外観 | 465 | |
| 4)樹木の成長、鳥の飼育 | 466 | |
| あとがき | 468 | |
| 1)普遍的不変性 | 468 | |
| 2)不完全性と完全性 | 468 | |
| 3)幸福感と真の永続思想 | 469 | |

書籍目録

| 大項目 | 中項目 | ページ数 | 価格 | 執筆日 | 発行日 発行所 ISBN |
|--------------------|-------------|------------|------|-------------|---|
| はじめに | 入門編 | A5 55p | 0円 | 2011.12 | 978-4-9906416-0-3 |
| | バラエティー編 | A5 28p | | | |
| 真なる調和への道 シリーズ | I 生存と自由の拡大 | A5 71p | 480円 | 2012.2 | 2017.3 美粋書房 978-9906416-1-0 |
| | II 健全性 | A5 93p | 520円 | 2012.3 | 2017.3 美粋書房 978-4-9906416-2-7 |
| | III 人類の教科書 | A5 245p | 650円 | 2012.5 | 2017.3 美粋書房 978-4-9906416-3-4 |
| | ☆取り纏め版 | A5 43p | 400円 | 2012.7 | 2017.3 美粋書房 978-4-9906416-4-1 |
| 活動の研究 シリーズ | I 活動の研究 | A5 138p | 430円 | 2012.10 | 2017.3 美粋書房 978-4-9906416-5-8 |
| | II 活動の研究 | A5 30p | 320円 | 2012.11 | 2017.3 美粋書房 978-4-9906416-6-5 |
| | III 活動の研究 | A5 41p | 340円 | 2012.12 | 2017.3 美粋書房 978-4-9906416-7-2 |
| | ☆活動学 | A5 86p | 480円 | 2012.9 | 2017.3 美粋書房 978-4-9906416-8-9 |
| 日本文化原論 シリーズ | I 神からのブラボォー | 文庫 311p | 760円 | | 2014.5 ブイツソリューション 978-4-434-18854-1 |
| | II 七色の虹の架け橋 | | | | |
| | 一編 生産性の具象 | A5 60p | 380円 | 2014.5 | 2017.3 美粋書房 |
| | 二編 主体 | A5 49p | 380円 | 2014.6 | 2017.3 美粋書房 |
| | 三編 人間学の要諦 | A5 75p | 430円 | 2014.7 | 2017.3 美粋書房 |
| | 四編 集約編 | A5 72p | 470円 | 2014.8 | 2017.3 美粋書房 |
| | 五編 総論 | A5 79p | 480円 | 2014.9 | 2017.3 美粋書房 |
| | 六編 基礎 | A5 57p | 430円 | 2014.10 | 2017.3 美粋書房 |
| | 七編 活動観念 | A5 49p | 430円 | 2014.11 | 2017.3 美粋書房 |
| | 八編 主体性学 | A5 56p | 450円 | 2014.12 | 2017.3 美粋書房 |
| | 九編 生産原理 | A5 35p | 380円 | 2015.1 | 2017.3 美粋書房 |
| | 十編 動性概念 | A5 50p | 430円 | 2015.2 | 2017.3 美粋書房 |
| | 十一編 真理の探究 | A5 69p | 460円 | 2015.3 | 2017.3 美粋書房 |
| | III 洗練集約版 | A5 80p | 793円 | | 2017.2 美粋書房 |
| IV 人類永続への方途 | A5 40p | 880円 | | 2017.2 美粋書房 | |
| V 永遠の動態という 静態原理 | A5 168p | 1145円 | | 2017.3 美粋書房 | |
| 目録 | 全著作の経過と体系 | A5 44p | 570円 | | 2017.3 美粋書房 |

1) プロフィール

1-1 氏名

文化活動家 横山俊一(よこやましゅんいち)



幼少の頃より縁起物制作と販売に約 35 年間従事し、その間に会社勤務を 8 年間程経ながら、平成 14 年(2008 年)1 月に縁起物制作を専業にして約 10 年経過し、平成 23 年(2011 年)12 月頃から文化論の執筆が習慣となりました。平成 26 年(2014 年)5 月に、「日本文化原論 真なる調和への道神からのプラボオー」を出版し令和 4 年 2 月(2022 年)に「日本文化原論 永続思想主性学 真なる調和への道 七色の虹の架け橋」と題し、概ね文化体系が整い人様に広くご案内を進めて良いものと考えました。祖父母や両親は既に他界しましたが縁起物作りの精神性は持続し今日に至ります。三世代の活動成果をご覧くださいますと幸いです。

| 年月 | | 縁起物 制作販売 | 会社 勤務 | 文化論 執筆 |
|---------|----|-------------|----------|-----------|
| 1970.4 | 出生 | | | / |
| 1977. | | 手伝い | | |
| 1992.7 | | | 金融業 | |
| 1997.11 | | 業務コンサル | | |
| 2002.1 | | 専業 | | |
| 2012.3 | | | | 美粋書房 |
| 2014.5 | | | | 神からのプラボオー |
| 2019.1 | | | | 主体性学 |

1-2 沿革

明治 38 年 祖父春吉 創業羽子板、だるま、雛人形、飾り熊手等の縁起物制作。昭和 45 年 4 月 5 日 埼玉県新座市で、父俊春母キクエの間に生まれる。

1-2-1 家族構成 両親と姉

父と母は、子供の名前に「恵美子、美代子、正子」「俊一」と付けた。美に恵まれる子、美に代わる子、正しい子、という理想の変遷する姿が見られる。自己の成長と子供の名前に密接な相関が見られる。自己自体の分身として子供と名前を表し理想と方法が投げられる。

1-2-2 学歴

昭和 58 年 3 月 大和田小学校 卒業

昭和 61 年 3 月 新座市立第二中学校 卒業

昭和 61 年 4 月 二松学舎大学付属高校入学、昭和 62 年 12 月退学

平成 4 年 5 月 大学入学資格検定合格

平成 8 年 4 月頃より中小企業診断士試験の専門校に 1 年程度通う

平成 10 年 9 月 産能短期大学能率科通信課程 卒業

平成 15 年 9 月 日本大学法学部政治経済科通信課程 卒業